

平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(奈良県)

— 主食用作付見込面積は8,530haの見込み
10a当たり予想収量は514kg(前年産に比べ7kg減少)の見込み —

1 作付面積

平成30年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は8,660haで、前年産に比べ70haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は8,530haが見込まれる。

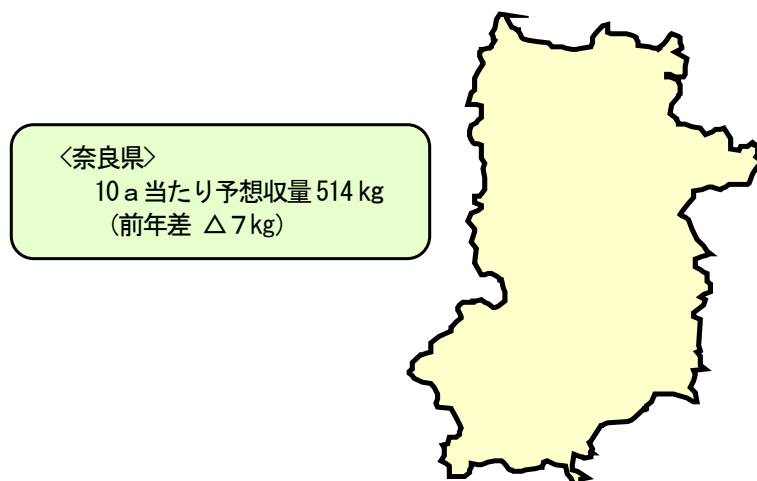
2 作柄概況

- (1) 全もみ数は、7月以降おおむね天候に恵まれ、穂数及び1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「平年並み」となった。
- (2) 登熟は、出穂期以降、9月上旬の日照時間が秋雨前線の影響等により平年を下回ったものの、気温は平年並みに推移しており「平年並み」が見込まれる。
- (3) 以上のことから、9月15日現在の10a当たり予想収量は514kg(前年産に比べ7kg減少)が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100となる見込み。
- (4) 被害は、山間部を中心にシカ及びイノシシによる獣害等の発生がみられる。

3 予想収穫量(主食用)

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は4万3,800tが見込まれる。

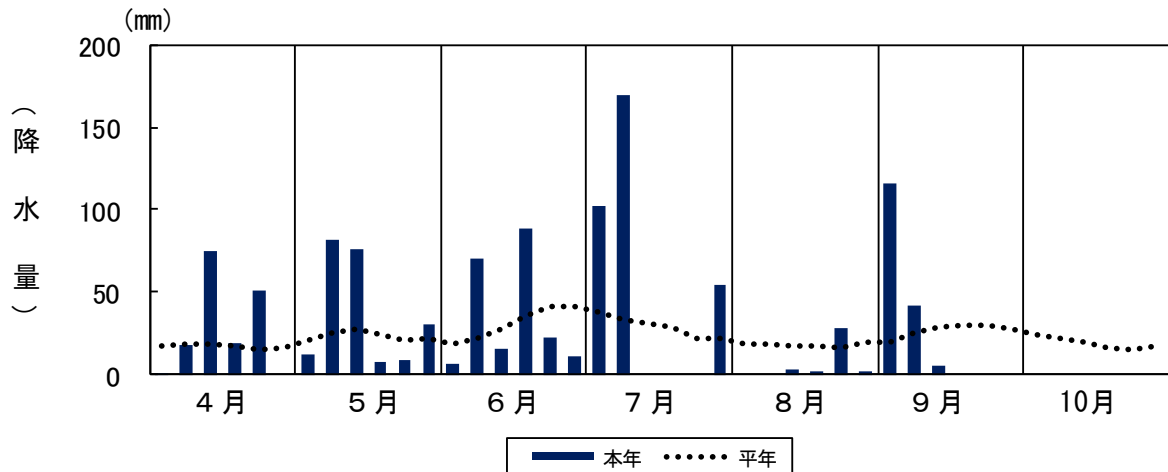
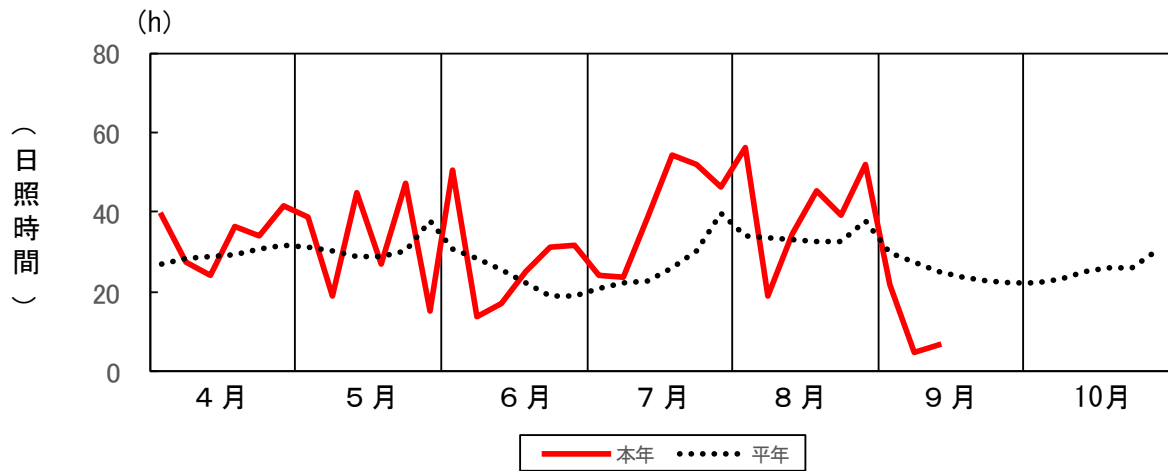
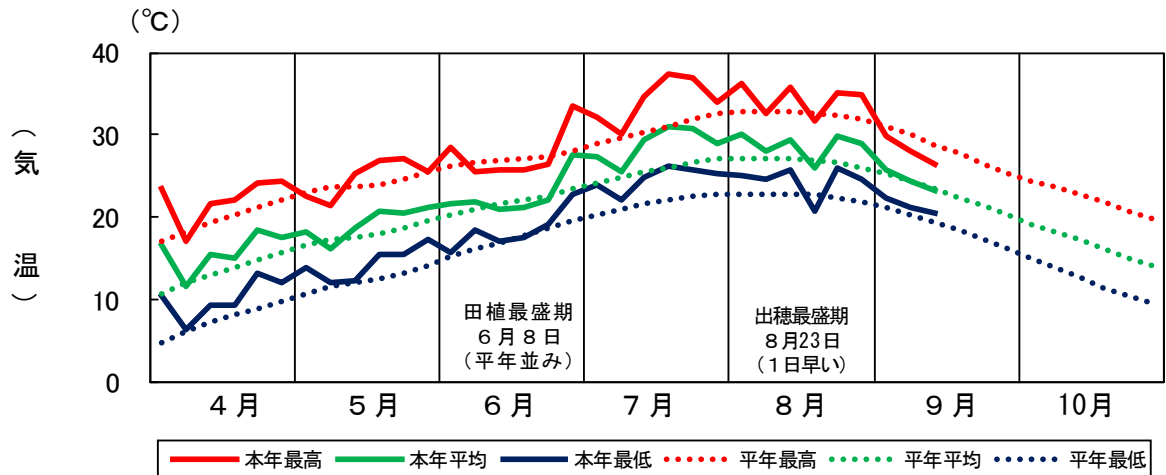
図 奈良県の10a当たり予想収量(9月15日現在)



- 本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。
- この資料は、「平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(近畿)」(平成30年9月28日公表)の補足資料として作成したものである。

【参考】

奈良県（奈良市）の気象



資料：気象庁『アメダスデータ』

注： 田植期及び出穂期の最盛期は、県平均の期日である。

なお、()内は、対平年差である。

【お問合せ先】

近畿農政局 奈良県拠点 統計チーム

電話：(代表) 0742-32-1870 内線 438

(直通) 0742-36-2988

F A X : 0742-36-2985